

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400359		
法人名	NPO法人エルターサポート協会		
事業所名	グループホーム 愛の郷 神辺		
所在地	福山市神辺町上御領391-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が閑静な田園地帯に位置している事で、穏やかに過ごして頂ける環境にある。入居者様本位に、皆様が笑顔で過ごせる様、全職員が笑顔をもっとに思いやりの介護、安心・安全の介護を実践している。また、御家族・知人の方々が訪問し易い雰囲気作りをしている。医療面でも、協力医と連携を密にとり緊急時の対応もチームプレイでスムーズに出来る様対応している。入居者様本位のケアに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台27-17-101
訪問調査日	平成27年10月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園地帯に位置し、日当たり・風通しがとても良い。周辺の交通量が少なく、利用者の日々の散歩にも好適の条件にある。玄関に法人の理念を、台所には職員が作成したユニット独自の理念を掲げている。日々の申し送り時には、その日の個人の目標を発表して理念の共有に努めている。また、職員一人ひとりの良さを見つけて発表する機会を設け、仕事への意欲も喚起している。管理者・職員ともに前向きで、困難から逃げない姿勢を持っている。利用者には笑顔が見られ、穏やかに生活している。日常的に医師・訪問看護師との連携が密で、利用者・家族に安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し、その日の個人目標を順番に発表して意識付けをしている。各ユニットの理念も目に付き易い所に貼り出し職員間で声を掛け合い、実践に努めている。	職員が作成した各ユニットの理念をユニットごとに掲げるとともに、日々の個人目標も発表して理念の実践に努めている。また、ケアの中で職員同士が声を掛け合うことで理念にそった対応を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣からの職員が多く地域行事が把握出来るので積極的に参加したり「子ども110番」や小・中学校の職場体験等の受け入れにも協力している。又、ホームの行事にボランティアとして参加して頂いている。	地域の溝掃除に積極的に参加している。地域からは踊りやマジックなどのボランティアの訪問がある。また、中学生の職場体験を受け入れ、小学生とは歌やゲームの交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と一緒に散歩したり、玄関先で日向ぼっこやレクリエーション(歌・紙芝居・ボール遊び・シャボン玉)をする姿を地域の方に見て頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の割合で開催し各分野の方に参加して頂いている。現状報告後、質問・意見を頂き出された意見は職員に伝え、事業所のサービス向上に努めている。	2ヶ月に一度、開催している。参加者は、町内会長・民生委員・介護保険課・包括支援センター等で、内容は利用状況や行事予定などである。出された意見は、地域のサロンに参加する等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内を持参し、毎回市職員の参加を得ている。	ケアマネが中心となり、生活福祉課・介護保険課などの市町村窓口担当者と必要に応じて日常的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、ミーティング時に身体拘束についても話題に上げ、拘束しないケアに努めている。帰宅願望に対しても、施錠などせず、気分転換に散歩をしたり職員同士が協力し合い対応している。H23年7月以降、身体拘束はありません。	尊厳を第一とし、利用者を理解し、見守り・きめ細やかなケアを行うことで、相互の信頼関係を築いており、身体拘束は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	プロ意識を持って笑顔の対応を心掛け、気になった対応には、職員同士が注意しあえる環境作りをしている。本社のスキルアップ研修にも取り上げているので参加し、勉強した事を全職員で共有している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を利用する事となった入居者が居られ学ぶことが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類(契約書・重要事項・運営規定)を通して十分に説明を行い、疑問点を聞き、納得を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いを大切に、家族の訪問時には現状報告をする中で、意見や要望が出やすい雰囲気作りをしている。法人から、無記名のアンケートを送付し意見を頂き、その内容をミーティングで話し合う事で運営に反映している。	毎日、利用者と話す機会を確保するなどして意見や要望を把握している。また、家族アンケートの意見を職員で話し合って家族への報告の仕方等に活かしている。反映できない場合は、その理由を利用者・家族に伝えて理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やミーティングで職員に意見や提案を聞き、運営に取り入れている。又個々にもしっかり声掛けを行い、人間関係を築く事で、本音で話せ、出された意見や提案を運営に反映している。	管理者は、職員の様子に気配りするとともに日常的に話を聞く機会を設け、意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状態を把握しやりがいの出る声掛け・対話を持ち、仕事に来ることが楽しいと思える環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回本社で行われる新人・スキルアップ研修に必ず参加してもらい内容は他の職員にも伝達し皆で研修している。外部研修にも積極的に参加している。持っている技術は、その都度安全・安心の対応をすべく、伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所間での交流、研修会等で知合った同業者とも交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや願い・趣味・嗜好品等をしっかり聞き入れ不安感を持たせない様、笑顔の対応、安心できる様な声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの労をねぎらい、家族の思いや困っている事・要望・願いをしっかり聞き取り、安心・安全の対応で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前に関わっていた施設等の情報をしっかり聞き取り、本人の状態を把握する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は取り上げず見守り支援する。自己にて洗濯たみや、机拭き・下膳等のお手伝いをして下さる時は、「ありがとう」の言葉を添えて役に立っているとの思いを持って頂ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された時は、本人が頑張っている事や良い事を本人が居られる所で報告する。貼り絵やクラフトをレクで作成し請求書の送付の時、担当スタッフが近況を手紙にしたためた物と同封する事で家族との繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人が気軽に訪ねて来易い雰囲気作りにも努め、積極的に話しかけたり、玄関先まで見送るなどの対応をしている。電話や手紙を出すなどの支援をし、馴染みの方との関係の継続の支援をしている。	家族や親戚、友人などの訪問時には、気軽に声をかけたり、一緒にゲームを楽しむなどしている。利用者が手紙を書く支援もしており、一緒にポストまで歩くこともある。月に一度は、担当者が利用者の家族に手紙を書くなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てる様、職員が間に入り、皆に分かり易い話題を提供し一緒に笑える場・時間など楽しい雰囲気作りにも努めている。入居者がお互いの居室を行き来出来る様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される時に入居期間に撮った写真をCDRやアルバムにしてお渡ししたり、これまでの繋がりを大切にしている。退去された方の家族とTELやメールのやり取りをして支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	笑顔の声掛けや会話を大切に「○○したい」の思いを聞き出し、出来るだけ意に沿えるように支援している。(散歩・買い物・おしゃれ等)	毎日、利用者と話す機会を作り、その思いや意向を把握し、買い物や散歩等に活かしている。困難な場合は、生活歴や家族との連携により把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの暮らしぶりを聞きだし、出来るだけそれまでの生活が出来る様に支援する。(散歩・趣味)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時、1人1人の心身の状態を報告し、職員全員で共有出来る様、申し送りノートを作成して漏れの無い様に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り・ミーティング等で個々の状況を確認し合い職員同士で意見を出し合い、家族の要望を反映した介護計画を作成している。	日々の観察やきめの細かい申し送りを基に、ケアマネが作成したものを、管理者と共に検討する。その後、家族に説明し同意を得ている。モニタリングは随時行い、見直しは6月を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、申し送り時に口頭でも詳しく伝え、カンファレンスに沿った介護記録にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態観察をしっかり行い、その方にとって一番よいであろう対応を全職員で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生・中学生の職場体験・地域の方による音楽療法・理美容室を利用し、本人が生き生きと安心・安全に楽しく生活できる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の掛かり付け医・グループホームの委託医共、連携を密にとり、状況をその都度伝え、家族・職員も周知している。グループホームの委託医が緊急時は他の医療機関や訪問看護と連携して安心して医療が受けられる体制が出来ている。	利用者・家族の意向により、現在は委託医を中心に受診している。緊急時には、他の医療機関や訪問看護師との連携体制が整い、家族や利用者に安心感を与えている。他科については、家族と連携し事業所が同行・受診した後、結果について家族と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人1人の日々の状態を介護者がしっかりと把握し看護師に気づきや状態の変化を報告・相談している。受診時には看護師が付き添い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時には、グループホームの委託医に相談し入院先を受け入れ可能か確認し搬送出来る為スムーズに対応できる。入院期間には、面会に訪れ病院関係者と情報交換を行い退院時期を相談したり、送迎は事業所で行い、御家族に安心を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し入居時に説明を行う。身体状況に変化が生じた場合は主治医から家族に説明をしてもらい家族の気持ちに応えるべく、主治医・看護師・職員が連携し対応出来る様取り組んでいる。	利用開始時に事業所の出来ること、出来ないことを説明している。家族・主治医・訪問看護師・事業所の連携体制が確立され、全ての職員が終末期に向けた方針を共有してケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、職員が慌てる事の無い様、マニュアルを作成し、医師との連携を図る様方針を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災・避難訓練を隣の小規模多機能と一緒にやっている。消防署の指導の下、入居者と共に訓練している。訓練は、発生時間の設定を日勤帯・夜勤帯と2通りしている。消防点検も定期的に行われている。	消防署の指導の下、年に2回、夜間と昼間を想定した避難と消火器の使い方の訓練を隣の小規模多機能と一緒に実施している。	利用者・家族の安心感をさらに高めるために、災害を想定した備蓄の準備等が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者の立場に立った声掛けや対応をしている。尊敬と慈しみを持った対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの尊厳を基本に、声かけのタイミング・声量に細やかな配慮をしている。また、入浴介助等では、同性の職員が対応するなどの工夫もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から言葉以外のスキンシップにも心掛け本人の意思を尊重し自己決定出来る様な環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来る事・したい事を自分のペースでして頂き、家庭的な生活・押し付けない・取り上げない自由な生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め・顔剃り・パーマ等、希望されれば職員が出来るだけの対応をしおしゃれする事で生きる喜びを感じて頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き取り、メニューに取り入れたり、その時期の旬の物を提供する。食前に嚥下体操や唾液腺マッサージをする事でスムーズに飲み込みが出来る様に支援している。職員と会話しながら楽しい雰囲気の中での食事をしている。	旬の食材を使い、職員が交代で調理している。利用者の好みを取り入れ、バラ寿司を作ったり、苦手なものは代替食にするなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量や水分量を把握し、不足している時は好きな飲み物を提供したり、補食として栄養補助剤(ラコール)提供してバランスをとっている。水分摂取の声掛けを小まめにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っているが、自分で出来ない方や、十分な口腔ケアが出来ないかたは職員が援助している。うがいが出来ず、飲み込まれる方には、水ではなくお茶での対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けを行い、入居者1人1人の排泄パターンを把握する様に努めている。体調が悪くなり紙パンツに変更になった方でも、体調が改善されると、少々の失禁があっても布パンツに戻しオムツの使用を減らす様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽い体操を行ったり、水分摂取量をチェックして好きな飲み物を取り入れたりしている。排便チェックも記録し、早めの便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の要望に応えながら、職員と一緒に歌を歌ったり会話を楽しくして頂ける雰囲気作りに努めている。入浴が嫌いな方には、足浴・手浴から始め、徐々に入って頂ける様に対応している。週2回は必ず入浴して頂き、清潔保持に努めている	入浴は週に2～3回で時間は午後を中心としている。利用者の要望も取り入れ、入浴の順序等の工夫をしている。拒む利用者には、声かけ・足浴・手浴等の工夫で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて、日中は自由に横になって頂き、夜間は本人の希望に沿って照明などの調節をし、その人らしくをモットーに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用には十分注意し状態観察に努めている。個々のカルテに処方箋を付け、いつでも確認できるようにしている。薬はお膳の上に置き分かり易い器に入れ、必ず服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業・散歩・読書等、1人1人の出来る事、したい事を把握し、毎日がメリハリある1日となる様に心掛けている。洗濯たため・新聞たため・机拭きなどのお手伝いをして頂く事で役に立っていると張り合いになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然環境に恵まれて車の量も少ない為、散歩や日光浴に庭先に出るなど積極的に取り組んでいる。また、職員と一緒に買い物に出掛けたり、年に1度は、家族の協力を得て、車を貸切、遠出を行っている。	利用者・家族の意向を汲み、日光浴や散歩、買い物等の支援を日常的にしている。近隣のベイファームへのドライブ等も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しいが、買い物などは、家族の了解のもと職員と一緒に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人の希望を叶えている。レクの時間にクラフトでハガキを作り、家族や知人に送付して喜んで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎朝消毒し清潔を保っている。空調は、小まめな温度調節を行い過ごし易い環境を保っている。なるべく季節の花を飾ったり、不快な臭いが無い様に心掛けている。	明るく風通しが良い。温度・湿度等の管理が適切で、空気の淀みもない。廊下の壁面には、利用者が職員と一緒に作成した貼り絵や書が飾っており、季節を感じさせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いたり、畳を敷いた場所作りをしていつでも自由に使用できる環境を作っている。居室には好きな時間に戻られ、時には仲良しで居室にお邪魔し会話もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性を感じさせる居室にと、家族の写真や手作り品・使い慣れた家具等、居心地良く過ごせる工夫をしている。	落ち着いた色調で、各室とも腰板には木材を使用して和やかな雰囲気を作っている。利用者の使い慣れた家具や写真等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで安全にしており、トイレ・洗面・居室の標示で自立した生活ができる様に工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策における地域との協力体制をつくる	年2回の防災・避難訓練に地域住民や消防団に参加して頂く	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練の日程を回覧板等で回して頂く ・消防団に声を掛ける ・運営推進会議で町内会長や民生委員に協力を求める 	12ヶ月
2	19	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の面会が無い入居者と家族の関係作り ・家族会への参加者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回でも足を運んで頂く ・家族会参加への呼びかけをしっかりとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月本人の近況報告を手紙にしたため送付する ・中で、面会に来て頂きたい事を伝え続ける ・家族会を家族間交流・何でも話せる雰囲気にし、 	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。